

登録コード:MH319300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	神経疾患の理学療法（含む演習）【20M以降】 Neurological Physical Therapy		
担当教員	小宅 一彰 他		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻/3年 前期 火曜・3時限 火曜・4時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科 1 1 1 講義室 保健学科運動療法実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	理学療法の代表的な対象疾患である神経疾患の病態を分析し、患者が抱える健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	様々な神経疾患患者に対する理学療法に関して、基礎的・専門的な知識と技能を習得し、理学療法の診療場面で活用できる。 医療技術が日々進歩する中で、理学療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に最善の神経理学療法を探索し、課題克服のために生涯をかけて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	主に成人期から老年期に出現する中枢神経系疾患では、様々な機能障害が生じ、それゆえに日常生活活動や社会参加が制限されます。脳血管障害をはじめとする各種神経疾患の病態を整理するとともに、理学療法プログラムを立案するために評価や治療体型について、講義とグループワークを通して学習します。 本授業は、2年次に学んだ「理学療法評価法Ⅰ」、「理学療法評価法Ⅱ」、「日常生活活動」、「臨床神経学」、「臨床物理療法」、「理学療法治療法」、「理学療法評価法実習」、「運動学習理論」の発展科目に位置付けられ、3年次前期の「理学療法治療法実習」と相補的に学んでいきます。また、3年次後期の「臨床基礎実習」に向けた前提科目となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務および臨床研究の経験を生かして授業を行います。		
授業計画	第1回 （4月14日） 理学療法評価法実習の振り返り 急性期理学療法診療技術(特に起立性低血圧の理解) 第2回 （4月21日） 脳血管障害の機能障害と回復メカニズム/脳血管障害の画像診断 第3回 （4月28日） 脳血管障害の歩行障害と装具療法 第4回 （5月12日） 【グループ学習】脳血管障害の障害と理学療法 ・運動麻痺と筋緊張異常 ・感覚障害と運動失調 ・半側空間無視と姿勢定位障害 ・身体失認、病態失認と二次性機能障害 第5回 （5月19日） 【グループ発表】脳血管障害の障害と理学療法 第6回 （5月26日） 脳血管障害の戦略的リハビリテーション（外部講師、近藤） 第7回 （6月2日） 脳血管障害の全身持久力低下/運動処方 第8回 （6月9日） 運動療法に活かす動機づけの心理学 第9回 （6月16日） 【グループ学習】脳血管障害の理学療法に関するエビデンスの理解 第10回 （6月23日） 【グループ発表】脳血管障害の理学療法に関するエビデンスの理解 第11回 （6月30日） 脊髄損傷、脱髄疾患に対する理学療法 第12回 （7月7日） 神経変性疾患に対する理学療法 第13回 （7月14日） 神経難病の当事者を支援する理学療法（外部講師、本間・他） 第14回 （7月21日） 【グループ学習】神経疾患の理学療法に関するエビデンスの理解 第15回 （7月28日） 【グループ発表】神経疾患の理学療法に関するエビデンスの理解 【授業アンケート】 第16回 （8月4日） 【期末試験】		
授業の進め方	本授業の前半では、中枢神経疾患の代表的疾患である脳血管障害について学習します。テキストの内容や臨床現場での取り組み、さらには担当教員の研究成果について、講義で紹介しします。また、脳血管障害の病態の理解や理学療法プログラムの立案についてグループワークによる能動学習を行います。授業の後半では、外傷性疾患や神経筋疾患の理学療法についてテキストを用いて学習するとともに、最新のエビデンスを探索するトレーニングをします。 前年度に履修した理学療法評価法実習や本授業と同時期に開講される理学療法治療法実習での学びと関連付けて、理解を深めるようにしてください。		
テキスト、教材、参考書	教科書 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版（編）森岡周、阿部浩明（医学書院）		

テキスト，教材，参考書	参考書 ・Rehabilitation for chronic neurological disorders including acquired brain injury. National Institute for Health and Care Excellence. 2025 https://www.nice.org.uk/guidance/ng252
成績評価の方法	グループ発表(5月19日、6月23日、7月28日)および期末試験(8月4日)の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、グループ発表が80%、期末試験が20%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。グループ発表では、教科書の枠に留まらず能動的に学習し論理的かつ分かりやすい発表ができるかを評価します。期末試験では、講義・演習で学習した内容を評価します。
成績評価の基準	グループ発表においては、与えられた課題に対して最低限の説明ができていれば「水準にある」、教科書の枠には留まらず能動的にエビデンスの探求をしていれば「やや上にある」、既存のエビデンスを踏まえ自身の見解を提示できていれば「かなり上にある」、さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」と評価します。 期末試験においては、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価します。 「卓越している」：秀 「かなり上にある」：優 「やや上にある」：良 「水準にある」：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 事前に授業資料は配布するので、該当するところを教科書などで予習しておいてください。 【事後学習について】 講義・演習をグループで実施することが多くなるため、学生間で十分連携して発表などに向けた学習を行ってください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(4時間×15回)＋自己学習時間30時間(2時間×15回)＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	中枢神経疾患では機能障害が永続することが多いことから、活動を再建するためには、機能障害の改善を図るだけでなく、残存機能を活用した代償的動作による運動学習、補装具・自助具による代償、環境調整を組み合わせた戦略的なアプローチが求められます。対象者個々の特性に応じて柔軟に治療アプローチを提案できるよう、授業だけでなく事前学習や事後学習での能動学習にも意欲的に取り組んでください。 質問への対応：小宅 一彰 k_oyake@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメールで希望日時についてご連絡ください） 保健学科南校舎4階 小宅研究室